

現況



「目指すべき姿」

## 平和都市広島を象徴する景観

広島市を世界平和のシンボルとして建設するため、広島平和記念都市建設法(昭和24年制定)に基づき広島平和記念都市建設計画(昭和27年)が策定されました。平和記念公園は、同計画に基づき、平和大通り、河岸緑地とともに、廃墟からの復興に向けた都市基盤として整備され、広島固有の景観を形成しています。

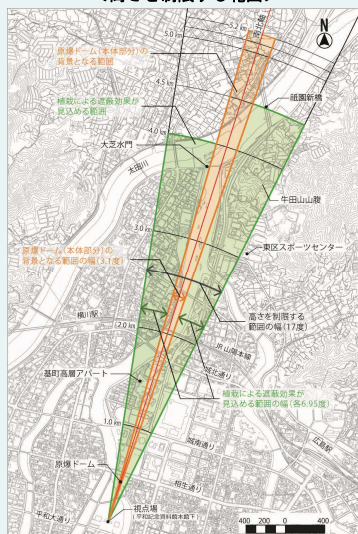
原爆ドームは平成8年12月に世界遺産に登録され、広島平和記念資料館本館は平成18年7月に国の重要文化財に、平和記念公園は平成19年2月(平和大通りから原爆ドームまでの中心区域)、翌年3月(公園全体)に国の名勝にそれぞれ指定されています。

平和記念公園南端の平和大通りから、広島平和記念資料館のロティと原爆死没者慰霊碑のアーチを経て原爆ドームへと延びる中軸線上の通視は、原爆死没者の慰霊と世界恒久平和への願いを確実に表現するものであり、視覚と慰霊の行為を関係づけようとする設計者丹下健三氏の優れた空間意匠及び構成の意図が読み取れます。

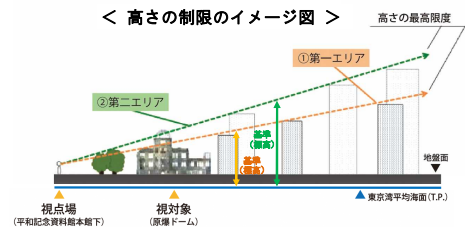
この軸線を見通す景観は、平和都市広島を象徴する景観として、次世代に引き継ぐべき大切な存在です。

平和記念資料館本館下から原爆死没者慰霊碑と原爆ドームを眺めた時に、原爆ドームの背景に建築物などが何も見えないような環境を「目指すべき姿」とし、その実現に向けて、実効性の高い景観誘導の枠組み(景観計画や高度地区による高さ制限等)を運用しながら、良好な景観の保全・形成に取り組んでいます。

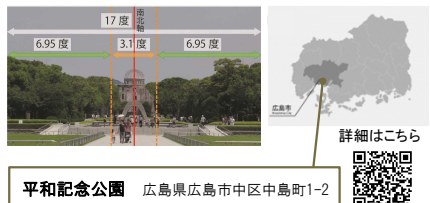
## <高さを制限する範囲>



## <高さの制限のイメージ図>



## <高さを制限する範囲の幅>



平和記念公園 広島県広島市中区中島町1-2



原爆死没者慰霊碑前から見た原爆ドーム



広島城



元宇品海岸



マツダスタジアム

## Viewtiful!ひろしま

広島市では、市民一人一人が、わがまちへの愛着や誇りを持ち、国内外の人々に広島を訪れてみたいと感じてもらえるよう、広島らしい眺望景観を広く発信するためのパンフレット「Viewtiful!ひろしま」を作成しました。

このパンフレットの作成に当たっては、市民投票を行い、25か所の眺望景観を選定しました。ここでは、この市民投票において得票数の多かった眺望景観をご紹介します。

### 【広島城】

広島市の都市としての歴史は、広島城の築城から始まり、以降、広島は城下町として発展してきました。国の史跡指定を受けた広島城跡が、当時をしのばせています。

### 【元宇品海岸】

瀬戸内海国立公園に指定されている元宇品では、その多様な植生の樹林や自然海岸などにより特徴付けられた瀬戸内海の自然を望むことができます。

### 【マツダスタジアム】

マツダスタジアム周辺では、商業施設の整備などにより、活力とにぎわいのある広島の顔ともなる新たな景観づくりが進められており、同スタジアムの堂々たる姿は、景観づくりのシンボルとなっています。

(※「viewtiful」は、英語の「view」(眺望)と「beautiful」(美しい)を合わせた造語です。)